

第3回石巻市震災復興基本計画市民検討委員会要旨

1. 日時・会場

平成23年6月29日（水）18時～20時30分 石巻市役所 庁議室

2. 検討委員会委員

別紙名簿のとおり

議題「災害に強いまちづくり」

① 委員長挨拶

委員の先生方、お忙しい中、御出席いただきありがとうございます。本日は、市からハザードが出てきておりますので、それらに対する委員皆様のビジョンを描いていきたいと思っております。忌憚のない御意見をお願いいたします。

② 資料説明

「都市基盤復興構想（基本構想）案について（資料1）」に基づいて基盤整備課近江課長補佐より説明いたしました。

③ 要旨

（小野田委員長）

- ・最初に書いてありますが、この案をタタキ台にして、委員の皆様の御意見を頂きたいというものです。是非、遠慮なさらずに御意見を頂きたいと思っております。

（委員）

- ・例えばですが、海岸部、外海に面しているところが高台移転となっております。国定公園法等の法律があると思いますが、整合性はとれているのでしょうか。

（基盤整備課長補佐）

- ・検討中であり、今後整合をとっていききたいと思っております。

（委員）

- ・網掛けとして広い部分がありますが、より狭い範囲で規制を外すのか早期に決めないと住民のコンセンサスも得られないと思っております。浜々の皆さんの意見集約をきちっとして進めていくことが肝要かと思っております。

（基盤整備課長補佐）

- ・現在、各総合支所を通じて住民との意見交換をしながら適地を探しています。一部の浜では案が出来上がっており、地元の声を聞くことからスタートしています。

（委員）

- ・住居としても高台へ住みたいと皆さんが望んでいます。例えば、仮設住宅を出た場合、鮎川浜での具体的なイメージ案を出来るだけ早く出して欲しいです。国のスピード感がないのでよろしくお願いしたいです。

（小野田委員長）

- ・居住の場所の話と港湾、両方をシンクロさせて動かさなくてはいけないので、担当は苦慮されていると思っておりますが、港湾については後で説明を担当から頂くとして大和委員、いかがですか。

（委員）

- ・私の地区は急傾斜なところなので、海岸から山までが狭く、一軒の家が建てられない状況にあり、漁業をしながら生活できる復興住宅を建ててもらいたいという陳情をしたところですが、将来、若い人がこういうところに住みたいと思えるようなまちづくりをお願いしたいです。

（小野田委員長）

- ・漁業を続けていくという話がありました。居住地の下には漁港がありますが、整備の考え方について何かありましたら御意見を申し上げます。

(委員)

- ・既存の浜がありますが、これは浜を全て残すという意味なのでしょうか。既存の浜は全て残すのか、小さい浜は集約するのをお伺いします。

(産業部長)

- ・石巻エリアと女川エリアに分類して、地区計画を策定するための準備をしています。県の計画策定とあわせ、市としての検討を進めている段階です。1種2種漁港を廃港するというものではありません。

(小野田委員長)

- ・地区計画を策定するスケジュールを教えてください。

(産業部長)

- ・地域の意見を反映した計画を目指しており、それぞれの浜での意見を聞いている段階です。最終的に宮城県の復興計画が秋口に策定ということですので、その頃には地区計画が確定の域に達するだろうと考えています。

(委員)

- ・半島部の漁業者の方と話をする機会がありましたが、全く収入がないという意見でした。一日も早く漁を再開したいけれども水揚げができないということですが、被害の少なかった漁港において水揚げの先行基地として体制をつくるのが、生活を守るために重要と思います。

(産業部長)

- ・被災後のスケジュールとしては、通常、災害査定に従って割合が示された後で復旧というのが通常パターンであります。しかしながらタイムラグがあり、先週24日に、市議会の臨時議会を召集して頂いて、仮復旧として一定の復旧を行うことで予算措置しております。

(委員長)

- ・なかなか難しいと思いますが、漁業の競争力、地域のポテンシャルを見て慎重に決めて頂ければと思います。

(委員)

- ・河北地区では、尾ノ崎から5つの集落があります。この地図では、南側が山で北斜面となり、住宅地の適地を見つけるのが難しいです。私の感触では、すぐ近くではなく、例えば道の駅付近という意見もあります、農地法などさまざまな土地利用規制の網に対する取組みが必要に思います。

(小野田委員長)

- ・全国的に仮設住宅の建設場所については問題となっており、石巻市だけで判断しにくい部分はあると思いますが、何か検討中の項目がありましたら御意見をお願いいたします。

(建設部次長)

- ・何分、今の段階でどこをどのようになると利権が絡むことからコメントに困りますが、そういう検討も必要と考えており、検討を重ねているところです。

(委員)

- ・北上地区は、3箇所に高所移転の要望書を陳情しております。そこに何人いけるかというのは条件次第であり、移転後には前のエリアが住めなくなることが前提と聞きました。被災者が負担しなければならない金額の割合がどうなっているのかわかりません。基本的な認識を示して欲しいと思います。

(基盤整備課長補佐)

- ・従前地については、危険区域として住むことができないことが条件となります。国の買い上げについては、基準、補償内容がまだ示されていません。可能だったとして土地の賃貸あるいは買い上げという手法もありますが、事例や一定の基準がない中ではお答えは難しい状況です。

(委員)

- ・渡波の地区では、危険区域かどうかということで、意見がバラバラとなっており、結果がどうなるのか悩んでいます。市の方でいつ頃までに危険区域かどうかわかるのかお聞きしたいです。養殖施設や定置網など国の補助があるのか、復旧がどのようになるのかお知らせ頂くと後継者もやる気ができるのではないかと思います。

(産業部長)

- ・後段の部分と思いますが、昨年2.28のチリ地震津波の際でも激甚災害の指定を受けています。今回も激甚災害の計算方式で査定されるものと理解しています。復興庁云々や水産特区の話もあり、

これからの動きは注目すべき部分もありますが、現段階では同様に査定されるものと思われます。
(基盤整備課長補佐)

- ・危険区域かどうかについてですが、渡波地区は建築制限という網を掛けさせて頂いていますが、佐須浜地区であれば、制限は掛けておりませんので危険区域とは設定しておりません。

(委員)

- ・高台移転の図はわかりやすいですが、実際は津波が来た時に年配の方が安全に徒歩で避難できる地域が望ましいと思います。当面、漁を小さい規模でもしたいという希望には、ぜひ応え、一日も早く共同で使う場所を選定いただきたいと思います。高台移転で基盤は整備できても等価交換や少ない費用負担で住むことが可能なのか、丁寧に対応して頂きたいと思います。

(小野田委員長)

- ・高台との関連性、費用負担のスキームと造成について、どのように調整していますか。

(事務局)

- ・我々も同様の意見ですが、一つひとつの地形が異なりますので、しっかり検証しながら設計し、住む人が便利になるように進めたいと考えております。

(委員)

- ・宅地の移転の問題ですが、宅地の網掛けについては、区画整理事業など換地の手法や網掛け中の期間は、土地の利用収益が止まりますから、例えば定期借地権を利用して宅地の収益をあげたり、造成完了後、等価交換したり売却もできるよう、市民が移転しないよう、悪循環にならないようにする必要がありますと思います。

(小野田委員長)

- ・地形を丁寧に読みながら、しっかり用地を確保していく、丁寧な作業が必要だと思います。雄勝をはじめ、牡鹿にも建築家を入らせておりますので、その後、建設部で検討されると思います。では中心部、市街地部について木村委員の方から議論を深めて頂きたいと思います。

(委員)

- ・中心市街地については、防波堤の整備などで防ぐという案と理解していますが、ここには高台移転という要素も盛り込まれているのか、堤防で防ぐということで終わるのでしょうか。

(建設部次長)

- ・※印のところに可住地の不足分については、市街化調整区域内に確保すると書いております。新しい宅地環境が求められていますが、先ほどのお話の通り、ここに明示することはできませんので移転の場所については考慮し、検討中です。

(委員)

- ・水産加工ゾーンを見ますと、災害に強いまちについては、我々の場所は弱いゾーンだと思います。あまり加工場を集積させず移転することも盛り込んでいただきたいと思います。

(産業部長)

- ・水産加工業の既存団地については、短期による仮復旧という考え方と本復旧という2段階で整理して考えております。一日も停止できないという産業ゆえ、短期的には今の状態で国費による復旧期のあとに、その後区画整理という手法とするか、移転とするか、関係する業界、団体と十分に協議したいと考えております。

(委員)

- ・業界全体として、突っ込んだ真剣な議論がまだされておられません。悩ましいのは仮復旧と本復興を同じ場所でやるのは、木と竹をくっつけるようなもので、いままで成功例が見当たりません。例えば、高次元の加工業であれば内陸部で賄えるが、そういう人がどれ位いるか、リスクと費用との関係でどうするかがあります。国からの支援について、土地の問題などを提案しても一度も返事が来ていません。政治家が出しますと言わない限りできないと官僚は言っている。

(小野田委員長)

- ・水産加工については、集中的に議論してはという意見もありました。将来を見据えた議論も必要で、その一方で84条の期限も迫っている状況です。

(浅野副委員長)

- ・基本構想案にある新交通システムのLR Tって何ですか。計画を立てるときに石巻線と仙石線をどうするのか、公共交通全体についての考察や議論がすべきではないですか。

(基盤整備課長補佐)

- ・環境にもやさしいお年寄りにもやさしい低床の電車です。全ての交通機関との統合は必要と考えています。ここでは我々の夢も加わっているとご理解いただきたいです。

(浅野副委員長)

- ・LRTなるものを認めたら、まちなかを通り川沿いを通るのですか。まちなかは大丈夫ですか。機能を発揮するのか検討をしないとかこういう発想には繋がってこないと思います。石巻線は、万石浦からトンネルを通して北部バイパスに繋げて石巻線は止めるなどの思い切った発想をしないと、LRTに議論が集中するとあまりいい結果にならないと思います。この問題を丁寧に検討すべきではないのでしょうか。

(委員)

- ・道路の問題を真剣に、メインに議論した方がいいと思います。盛り土構造で津波を防げるとは思えません。東西に堤防をつける、日和山や牧山に逃げる道路をどう確保するのか、それが一番大事です。車で逃げるのが現実であり、どこに逃げるのかシミュレーションが必要です。

(建設部次長)

- ・安全な避難路の確保は、我々も考えております。実は、津波シミュレーションを少しずつ始めております。科学的根拠は、7月から8月にかけてははっきりしてくると考えております。その根拠を踏まえ、84条の地域でどのように事業化していくのか検討して参ります。LRTは、建設部としては夢ですが、丁寧に検討していきたいと考えています。

(委員)

- ・LRTの優先順位は高くないと思います。

(浅野副委員長)

- ・LRTの優先順位は低いと思うが、これをオーソライズされたらまちづくりに影響あります。こういう新しいものでコンセンサスを得られるのでしょうか。

(委員)

- ・LRTをやるにしても範囲が大きすぎ、これではスモールタウンにも相反します。確実に蛇田の商業ゾーンに行きます。また、公園ゾーンは、観光施設になります。欲を言えば中瀬公園とか中心市街地に近いところがないとアクセスが不便、サン・ファン・パウティスタもそうだが、観光資源の周遊性をこのタイミングで真剣な議論が必要に思います。

(小野田委員長)

- ・メインの議題ですが、そこに入る前にLRTはどうしますか、夢を残すことはいいと思いますが、お金の使い方は優先度があると思いますがいかがでしょうか。

(基盤整備課長補佐)

- ・LRTは、環境負荷を軽減したいということで、若干優先度は低く話題提供レベル、たたき台に留め、皆様のご意見でこれより先にすることがあるということであれば真摯に受け止めたいと思います。

(小野田委員長)

- ・本質的な交通計画をお示し頂いて、LRTもあるなということであればいいということでしょうか。厳しいご意見もありますが、ぜひ反映していただくようお願いいたします。

(浅野副委員長)

- ・LRTを計画に書いたらだめでしょう。
- ・過去のものとして、中瀬は公園にしないのでしょうか。また、南浜町の費用負担はどうするのでしょうか、国が買うのか、現実的にやれる話とやれない話があると思います。机上の空論にならないようにしたいです。結局は費用の問題になります。

(小野田委員長)

- ・まちなかの魅力を増すための戦略という話、浅野会頭から費用について質問がありました。

(建設部次長)

- ・これはあくまでタタキ台として、財政的根拠や国の支援も見えない中でお示ししたものです。現制度は阪神の特措法を元にしてしています。防災集団移転促進事業も平成7年の奥尻が最初だったかと思います。移転の限度額もあり、財政的には非常に厳しい状況です。具体的な話として、1万人のアンケート調査をしましたが、南浜町地区では8割の方々が市内での移転を希望しています。

(亀山市長)

- ・公園ゾーン、水産加工ゾーンについても国からの指示が出るのを待っているのは遅いのです。国ではいくらかかるのか絵を描いて、早く出して欲しい、そうしたら府省庁で検討するとのこと。提案をしていただかないと国は動きません。国を動かすのは基礎自治体です。いまがいいチャンスだと思っていますのでご理解いただきたいと思います。

(委員)

- ・非可住地というラインが設定され、大きなエリアとなります。受け入れ先は市街化調整区域という話もありましたが、市街地の再開発事業の中で賑わいの再構築という観点からも検討いただきたいと思います。市役所のこの近辺を生かしきるという見識を持って欲しいです。

(委員)

- ・面積と商店の数というバランスを考えて商業ゾーンを考える必要があります。商店の数を商業ゾーンに落とし込むと面積は減ります。その分を住居なりに再開発し、イベントホールなどもあわせ、住と商を一緒に考えた活性化を考えるべきだと思います。避難ビルですが、工業ゾーンの盛り土の間に避難ビルがありますが、後背地の住宅ゾーンには避難ビルがなく、避難経路がしっかりしていればいらないのかということをおたずねします。

(基盤整備課長補佐)

- ・中心市街地について、仰られたとおりの内容で検討はしております。立地されている方々と十分な話し合いをしたいと考えています。避難ビルについては、第1の守りと第2の守りがあって住宅地になります。津波シミュレーションを待って検討しますが、考え方としては第2の守りで守りたいと考えています。避難ビルは非可住地に考えたものですが、津波シミュレーションによりどうしてもということであれば、住宅地にある集会所等をそのような機能を持たせることも考えたいと思います。

(委員)

- ・復興イメージ図のなかで避難をどうするか、というのが大きなテーマだと思います。避難イメージ図も必要かと思います。

(基盤整備課長補佐)

- ・都市基盤として提案させていただきました。ソフトも含め、今後マッチングさせていきたいと考えています。

(委員)

- ・1点目は、タタキ台の資料があるときは、事前に頂ければスムーズに話し合えると思います。2点目は、ペDESTリアンデッキの範囲について教えてください。3点目は、市街地にも居住地を設けていただき、高台でも市街地でも選べる居住地をお願いします。4点目は、新聞報道で被災地での被災した建物の保存という話が出ていますが、石巻でのお考えをお伺いしたいです。最後に、復興を考えると、特に商業が一番ベースになるのは人口分布です。被災後、どのように戻るのが、町丁目で調査して置くと、次の震災が起きたときに貴重なデータとなると思います。

(基盤整備課長補佐)

- ・ペDESTリアンデッキについては、駅を中心に商業の再生と安全の確保として中瀬の手前、アイトピア通りで考えています。そのようなルートでイメージしています。

(小野田委員長)

- ・いろいろな可能性を追求するのはいいですが、東京や仙台など交通量が多い所はいいと思いますが、ペDESTリアンデッキはお金がかかるので費用対効果を含めながら検討してほしいと思います。それでは、3つ目の居住地ですが、市街地に住めるオプションがあるのかどうかということですね。

(基盤整備課長補佐)

- ・居住については、高台のみならず市街地も考えて、現在も検討しています。

(小野田委員長)

- ・まちなか居住、コンパクトシティは理に適っています。事業化できるかハードルは高いですが、可能性はあります。

(復興対策室長)

- ・被災した建物の保存については、メモリアル的あるいはアーカイブとしてという話はしています。被災者の心の傷という側面もありますので、慎重に検討して参ります。人口動態については、

人口フレームを必要ですが、現状の人数把握を急いでおりますが、不確定要素が多く、産業フレームともども精度をどこまで高められるか、庁内で検討中です。

(委員)

- ・前にもお願いしましたが、被災前の問題を解決できるようにして頂きたいと思います。移転は市街化調整区域という話もありましたが、皆さんの意見にもあったように、まちなか居住を進める必要があると思います。被災前にもコンパクトシティが叫ばれていました、インフラ管理の面についても、既存の市街地で高度利用を図るのか、安全な規模について議論を集中させるべきと思っています。2階以上は、ペDESTリアンデッキで出入りさせ、いろいろな機能をまちなかに持たせることによって、震災前の課題を解決できると思います。

(建設部次長)

- ・やはり中心市街地の活気は必要であり、居住は是非とも必要だと思っています。84 条エリアは、440ha、7,600 世帯と相当の面積があり、中心市街地への誘導はもちろん必要です。ただ、絶対数は足りませんし、地元のやる気や具体性をどうするかという問題もあります。

(委員)

- ・本当に実現するのであれば、7,000 世帯のうち、1,000 世帯、2,000 世帯でも結構です。まちなかへの居住を数値として、具体的なボリュームとして住ませたいという視点を加えて欲しいです。

(委員)

- ・どういう絵を描いてどう実現するかという意見は大賛成です。仙石線を複線化すれば仙台まで 1 時間以内で行け、駅前には魅力が高まると思います。市街地の商店街は機能を失っていると感じていますが、小柳町があるから「まち」であり、盛り場は大事にすべき重要な地域です。大潮で水があがってくる状況で郊外に移るという方がいます。結束力もなくリーダーもいないため、下手すると崩壊しかねませんが、行政も価値を認めるべきです。再開発するにしても、避難所・避難ビルの機能が欠かせません。日和山の下公園ゾーンは高い盛り土道路にしないでいいのではないかと思います。南浜町と門脇町ですが、沖合いに防波堤を造ることや内側にヨットハーバーを造ることも夢として提案します。

(小野田委員長)

- ・あまり要望を膨らませ過ぎず、必要なものの優先順位を決める必要があります。

(委員)

- ・国のお金を使っての再開発ということでいくと、十分な議論はされていないが、これからの時代に耐えられる立派な技術的とすべきだと思います。水産加工団地の北側の高盛り土道路の高さや構造的にどのように守られるのかがわかりません。相当の人数が働くことになりますので、安全なのか鉄の扉はどのような構造になるのかイメージがわかりません。

(事務局)

- ・南北の道路の乗り入れの話だと思いますが、高さが仮置きで盛り土の高さが決まらないためわかりません。高盛り土道路は避難路として、また山に行く場合は下か上かは高さによって決まってきます。

(委員)

- ・現実的に難しくないか、非常に不安です。技術開発もあると思うが現実性がないと夢物語になります。

(小野田委員長)

- ・恐らくそんなに難しい問題ではないと思いますが、ただ街と街が分断されてしまう可能性があります。

(浅野副委員長)

- ・高さを決めるのは大事なところであり、いつ誰が決めるのか、北上川の堤防は大事な話であり、高くしないで欲しいと街の人はみんな言っています。

(事務局)

- ・今、東北大で簡易シミュレーションを行っており、国の調査で本格的なシミュレーションを実施して、それを受けて津波を防御する高さ、高盛り土の高さの拠り所を置いて決めていきます。

(小野田委員長)

- ・皆さんに開示しながら、共有して決めていくということだと思います。その時の科学的根拠がありますということだと思います。

(委員)

- ・大街道地区には、建てられる所、直せるところ、直せないところ、いろいろありました。安心して住めるという面から浸水からどう守るか、排水にしても二重三重の仕組みに万全を期して頂きたいと思っています。

(委員)

- ・1段目の高盛り土について、東松島との接点についておたずねします。また女川 398 号線との接点、水産加工場、三陸道との繋がり、観光客の流れができるので重要に思いますが、如何でしょうか。

(基盤整備課長補佐)

- ・1つ目の守りとしては、松島への4車線を高盛り土するイメージです。渡波地区は、398号線の公園ゾーンから渡波の漁港を高盛り土とし、第2の守りとしていきたい考えです。

(委員)

- ・少子高齢化の中で、働く場の創出を意識しながら若い人が希望の持てる街をお願いしたいと思います。

(委員)

- ・子育て世代の考え方とか福祉とか教育、子どもの議論に行かない、反映されていないのではないかと不信感を感じています。女性の視点は少し異なるのでニーズをしっかりと把握すべきだと思います。7月中旬までしっかりと市民の意見をしっかりと聞く、市民と対話する機会を設けて頂きたいと思います。今日は煮え切らない答えばかりだなと感じています。市民との対話を是非、実現してほしいと思います。

(復興対策室長)

- ・住民との意見交換について、ここに至るまでには、方針を示してアンケート調査、地区の代表の方々との意見交換、そして7月中旬頃から地区住民の方々との話し合いを実施したいと考えております。

(小野田委員長)

- ・福祉の話も大事ですが、今日はハザードの話だけでしたが、まずはハザードの話を確定して、その次にライフを作っていくという順番だと思います。忘れていたわけではなく、次の段階でご意見にお答えできると考えています。

(委員)

- ・高盛り土、堤防は必要だと思います。石巻は北上川とともに栄えてきた町です。今回、南境との橋が非常に活躍しました、橋がもっとあるべきだと思います。新しい内海橋は是非、中央交番から真っ直ぐ通していただきたいと思います。現在の内海橋は、歩行者、自転車に限定して頂きたいと思います。仙台・石巻間の三陸道が混雑しており4車線化をお願いしたい。サン・ファン館を是非、中瀬に持ってきて公園化して欲しい。また、女川への道路は398号線しかないのでトンネル化もお願いしたいです。

(委員)

- ・郊外に住む人間としては、他の街とあまり変わらないように感じました。歴史ある石巻らしい復興があってもいいのかなと思います。先ほど青木委員からも話がありましたが、石巻駅を降りたときに街に来たんだ、呑みに行くぞというイメージが必要だと思います。

(委員)

- ・農地は、北上の大川地区の350町歩が水害にあい、被害面積としては大きい被害となっています。生産基盤を元に戻すことが大事であり、農地の復旧、復興を市が示して欲しいです。水田を宅地化するのであればかなりの時間がかかるため、スピード感を早く示して欲しいです。

(産業部長)

- ・針岡、大川、長面は400haもある広大な農地ですが、今回、今現在も海のような状態です。農林水産省等々と復旧について協議していますが、大川地区につきましては遺体の捜査を最重要としています。その後、長面地区の200haの扱いは、一定の解決を見た段階で考えたいです。農振農用地と都市計画法の扱いについては、両面を考えながら総合調整後に関係団体と協議し、お知恵を拝借したいと思います。

(委員)

- ・大川地区の人間として申し上げます。今ゾーニングされている河北地区の海岸線は、震災前の線

です。今は、ずっと海が内陸に入っており海が荒れたら大変です。侵食しないような大きな防波堤、内側に頑丈な堤防を造らないと農地の再生は難しいです。同時進行で海水の進入を防ぐ、土木施設を造ることを申し上げたいと思います。

(建設部次長)

- ・大川地区、長面地区から始まって、富士川の所が破堤により海と化しているが、今現在国交省、農林水産省と協議が進んでいる状況と聞いており、暫定的な築堤を進めています。本提の築造に努力して農地の回復をしていきたいと伺っています。

(委員)

- ・日和大橋のシンボル公園から1本、橋が架かっていますが、湊方面の避難路として活用するために高盛り土が設けたのかと理解しました。そうすると湊地区は高盛り土道路が1本だけで、すぐ森林と住宅地となります。果たして住宅として安全なのか、また、北上川河口の河川堤防、プロムナードだけで安全なのか。河川堤防は防災拠点まで伸びており、北上川の流れが変わることはないのか。生活部会で緊急医療の話が出ましたが、日赤だけで緊急医療の役割を果たしていない。緊急医療場所、輸送の道路を決める必要があると思います。

(委員)

- ・まちの中心を活性化するには、車でのアクセスが一番重要です。内海橋、石巻大橋だけでは非常にアクセスが悪いです。復興させるには、もっと広い道路をつくる、アクセスを良くしないと人が集まりません。市内の道路を大胆に整備し、その上で建物を考える必要があると思います。

(基盤整備課長補佐)

- ・道路網の大切さ、避難路として、緊急路としても必要に感じています。今のお話を参考に道路網の整備を中心に行っていきたいと思います。

(小野田委員長)

- ・これまでの生活部会、産業部会の流れを汲みながら議論が出来たかと思います。

(浅野副委員長)

- ・大変お疲れの中、ご苦勞様でした。これからの石巻を決める大事な会議です。この責任の重大さを認識してこれからも頑張ってください。すぐに産業部会がありますのでお付き合いください。ありがとうございました。